

ニュースレター

Posidonia 2026 国際海事展参加事業の実施経過について

2026年6月16日

日本船舶輸出組合

本組合は、去る6月1日（月）から5日（金）までギリシャの Metropolitan Expo Centre において開催された Posidonia 2026 国際海事展（主催：Posidonia Exhibitions SA）に、（一社）日本造船工業会の協力のもと、（公財）日本財団の支援を得て参加した。

今回で29回目を迎えた同海事展には、83ヶ国、2,244社の参加があり、入場者数は、過去最高の35,083名を記録するなど、盛況であった。

今回の展示に当たっては、（一社）日本船用工業会と共同でナショナル・スタンドを形成する統一展示方式を採用した。同展示方式の下で、各社がそれぞれのブースで積極的なPR活動を展開し、会場に参集した欧米船主等に対し組合員各社が開発した新船型や2050年のカーボン・ニュートラル達成に向けた新燃料船等のゼロエミッション船の開発など、新世代船舶・技術を中心に日本造船業の技術の優秀性を強くアピールした。

なお、過去4回の国際海事展出展時と同様、「輸組独自のデジタルプラットフォーム（JDP：JSEA Digital Platform）」を活用し、実物展示と連動したバーチャル展示場を構築した。今回は、出展を行わない組合員企業に対してもデジタル参加枠としてバーチャル展示場での出展を募り、伊藤忠商事、内海造船、尾道造船、佐々木造船、住友重機械マリンエンジニアリング、常石ソリューションズ東京ベイの6社が出展した。

また、6月2日（火）13:15より、本邦造船業界の最大の顧客であるギリシャ船主への訴求をテーマに、日本造船再生の機運を内外にアピールするため、展示会場内 Seminar Room Central において、ギリシャ船主等を対象に“Future of shipbuilding and technology in Japan- Made in Japan again-”と題したセミナーを開催し、盛況裏に終了した。同セミナーにおいては、前回の Posidonia 2024 に引き続き JDP 上でライブ配信した映像を日本パビリオン内に設置した大型モニター上でパブリックビューイングにより同時放映した。また翌6月3日（水）に、日本パビリオン内に設置した大型モニターを使用した展示会場内プレゼンテーション（ミニセミナー）を実施し、盛況裏に終了した。さらに、同日の夕刻には、欧州の海事関係者、政府関係者、報道関係者等を招待し、伊藤康一在ギリシャ日本国大使ご夫妻及び金花芳則本組合理事長夫妻共催のパーティを開催し、盛会であった。

記

1. 展示会への出展会社

- ・ 83ヶ国（地域）から 2,244 社が出展した。

なお、そのうち日本、オーストリア、バハマ、ベリーズ、ブラジル、中国、キプロス、デンマーク、ジョージア、ドイツ、イタリア、大韓民国、リベリア、マルタ、オランダ、ノルウェー、パナマ、ポーランド、ルーマニア、シンガポール、スリランカ、トルコ、英国、米国の 24 ヶ国がナショナル・スタンドを形成した。

2. 入場者数

- ・ 過去最多の 35,083 名が入場した。

3. 開場式等

- ・ 6月1日（月）17:00 より、日本スタンドにおいて、伊藤康一駐ギリシャ日本国大使、金花芳則本組合理事長、深田雄（一社）日本船用工業会副会長、今井新国土交通省大臣官房技術審議官、並びに（一財）日本海事協会菅勇人会長のテープカットにより日本スタンドの開場式が行われた。
- ・ 同日 18:00 より、展示会場コンファレンスルームにおいて Posidonia 2026 のオフィシャル・オープニングが開催され、ギリシャのキリアコス・ミツォタキス首相により開会宣言が行われた。
- ・ 上記に引き続き、同ミツォタキス首相による会場巡覧が行われ、伊藤大使、金花理事長以下、本組合首脳等が交流し、写真撮影等を行った。

4. 本組合の展示

- ・ メインエントランスに最も近いホール 4 に 220 m²を確保し、（一社）日本船用工業会とともに全体として日本スタンドを形成し、“オール・ジャパン”をアピールした。
- ・ 日本スタンドにおいては、造船会社 9 社が出展した。
- ・ 各社ブースにおいては、写真パネルを展示するとともに、各社が用意した動画や製品情報をまとめた資料等を 55 インチのタッチモニター上に表示し、自社の製品、技術、CI を PR した。また、出展各社から派遣されたアテンダントが、終日来場者に対し説明・紹介等を行った。
- ・ さらに、展示効果を高めるため、（公財）日本財団の支援により編集作成した参加各社の PR ビデオを、スタンド中央に設置した大型モニターにより放映した。

5. セミナー

- ・ 6月2日（火）13:15 より展示会場内 Seminar Room Central において、ギリシャ船主等を対象に、“Future of shipbuilding and technology in Japan- Made in Japan again-”と題し、セミナーを開催した。

- ・本セミナーは、ジャパンシップセンター（JETRO ロンドン）濱中海事部長の進行により、本組合金花理事長の開会挨拶に続いて、国土交通省海事局船舶産業課の深石晃国際業務室長、Hellenic Chamber of Shipping の Yannis Triphyllis 氏、（一社）日本造船工業会の斎藤英明専務理事、日本船主協会海上安全委員の山本泰氏（日本郵船(株)執行役員 工務、船舶事業、技術開発各グループ担当）の 4 名から基調講演をいただいた。その後、（一財）日本海事協会並びに本組合組合員企業 4 社（川崎重工業、三井 E&S、日本シップヤード、大島造船所）によるプレゼンテーションを実施し、各社の最新技術や取り組みを紹介した。さらに、ギリシャ船主 Alberta Shipmanagement の Alexia Inglessis 氏を招き、同氏による日本造船への期待、洞察等についての発表が行われた。

なお、セミナーの様子は JDP を通して、YouTube にてライブ配信を行なうとともに、日本パビリオン内に設置した大型モニター上でパブリックビューイングにより同時放映した。

- ・最大 120 名近い出席者を得、日本造船の技術等を広くアピールする機会となった。

6. プレゼンテーション（ミニセミナー）

- ・6月3日（水）13:00 より、ブース来場者に向け、日本パビリオン内に設置した大型モニターを使用した展示会場内プレゼンテーション（ミニセミナー）を実施した。
- ・本プレゼンテーションは、ジャパンシップセンター（JETRO ロンドン）権市場調査部長の進行により、本組合からの出展企業 2 社（川崎重工業、日本シップヤード）、（一社）日本船用工業会からの出展企業 9 社（商船三井テクノトレード、三浦工業、BEMAC、ヤンマーパワーソリューション、ナブテスコ、三井 E&S、ダイハツインフィニアース、三菱重工マリンマシナリ、YDK テクノロジーズ）が各社の最新技術や取り組みについての発表を行った。

7. パーティ

- ・6月3日（水）19:00 から、Athenaeum InterContinental Hotel において、伊藤大使ご夫妻並びに金花理事長夫妻の共催によりパーティを開催した。
- ・同パーティには、ギリシャをはじめとする各国の有力船主、ブローカー、金融、報道、ギリシャ政府関係者、在ギリシャ各国大使館関係者等が夫人同伴で来場し、伊藤大使ご夫妻、金花理事長夫妻、檜垣副理事長、藤本副理事長がこれを迎え、さらに伊藤大使およびギリシャ海事大臣 Vasilis Kikilias 氏が歓迎スピーチを行った。
- ・来場者数は主客併せて 896 名に及び、ギリシャ船主をはじめとする欧州海運界関係者等と緊密な交流を図るとの所期の目的を達成することができた。

以 上

日本パビリオンテープカットの様子



日本パビリオンの様子



テープカット：左から（一社）日本船用工業会・深田副会長、国土交通省・今井技術審議官、伊藤駐ギリシャ日本国大使、金花理事長、（一財）日本海事協会・菅会長

ミツオタキス首相による日本パビリオン訪問の様子



プレゼンテーションの様子



セミナーの様子



パーティの様子

